

留学報告書 II (2020 年度留学生)

塾内在籍校・学年(派遣時)	高等学校 3 年
留学先校名	Phillips Academy Andover
留学期間	2020 年 9 月から 2021 年 6 月まで

留学前

なぜ留学を志しましたか？また、留学を志した時期はいつ頃ですか。

幼少期に上海のインターナショナルスクールで過ごし、自分の世界が広がっていくことを経験し、それ以来海外に目を向けるようになりました。新聞でこのプログラムを知り、それが普通部受験の決め手となりました。中学生で参加した説明会では生の先輩の声を聞き、自分もこのプログラムに参加したいという憧れが強くなり、まず高校 2 年生で本留学制度に挑戦しましたが、最終選考で残念な結果となり悔しい思いをしました。反省点を踏まえて面接とエッセイの二点を改善し、高校 3 年生で再度挑戦しました。

派遣留学先では、どのようなことを期待していましたか？

世界各国の英才が集うといわれるアンドーバーで、育った環境、価値観、考え方のまったく違う友人から刺激を受けること、また世界中から集まる優秀な生徒と肩を並べることで、どんな世界でもやっつけける自信をつけたいという期待がありました。また、ディスカッションやプレゼンテーションの多い授業を受けることにより、ディベート力を向上させ、自分の意見を人に惹きつけるように伝えることを身に着けたいという思いで渡米しました。

留学を振り返って

コロナウイルスの影響で様々な制約のある中、期待を上回る留学体験を得ることが出来ました。今回の留学において一番大きかったことは、窮地に直面した時に共に乗り越えることのできる心強い仲間に出会えたことです。寮での生活において、友人は家族のような存在になり、辛い時もうれしい時も一緒に分かち合い、かけがえのない人間関係を築くことが出来たと思います。孤立しがちなオンライン授業が続き、外出もままならない環境の中、仲間たちの存在は大きいものでした。

ディスカッションを中心とした授業が多いと聞いており、期待をしていたのですが、実際に授業を受けると生徒一人ひとりが非常にハイレベルな議論を繰り広げ、大変よい刺激になりました。生活や環境面では、学校の万全な対策と意識の高い生徒たちの行動によって、安心してキャンパスライフを送ることができました。Non-sibi (not for self) という学校のモットーに基づき、マスクを着用し、ウイルス検査もし、意識的に密を避けていたので、ほとんどコロナウイルスの影響を感じさせない学校生活を送ることができました。

学校内や寮内で、コロナ対策としてどのようなルールがありましたか？

コロナ対策はマスクの着用、消毒の徹底、6 feet の距離を保つこと、の 3 つを行いました。また年間を通して、週に 2 回の PCR 検査も行われました。入寮時期も 3 年生から試験的にスタートし、安全を確保してからその他の学年も入寮するという体制が取られました。

始め授業は基本オンライン授業で、PCR 検査により安全を確保した上で、春からようやく対面授業になりました。また、食事は食堂ではなく容器に入っている食事をとりに行くという日々が続きました。学校のモットーである non-sibi (not for self) に基づきコロナウイルスによる誓約書を書き、周りの人間を守るために全員が意識を高め、生徒同士で話合ったことはアンドーバーらしい良さを感じました。4 月よりワクチンが学校から支給され、最高学年から順に、5 月までには生徒のほとんどが接種完了していました。

リモート学習期間中、友人とのコミュニケーションはどのようにとっていましたか？

入寮してからの 2 週間は隔離週間で寮の外へ出ることを禁じられていたので、その時は寮の友人から誘われた Netflix Party を活用して、オンラインで交友関係を築きました。また、自粛中に人気があったゲーム「Among Us」を通じて親睦を深めました。同じフロアの友人は pod と呼び、pod 単位で接触が許されていた為、部屋の行き来ができてからは直接会って交流することが可能になりました。隔離が解けると授業はしばらくオンラインでしたが、週に 2 回の PCR 検査があり、学内は基本外部のウイルスから遮断で

きていたので、外に設置してあるテントで友人と共に食事をとったり一緒に勉強をしたりすることが出来るようになり、とても良い気分転換になりました。

学業について

各授業について授業の内容・進め方・課題・試験・日本との比較などについて触れながら記入してください。対面授業とリモート授業でどのような違いがあったかも教えてください。

各クラスの生徒人数は10人から15人程度でした。

数学

学習内容は主に日本の数Ⅲの内容でした。日本では授業で新しい内容を学習し宿題はその復習になりますが、アンドーバーでは宿題が予習になり、演習問題を解いた上で更に授業で復習をクラスメートとする形式がとられました。オンライン授業はブレイクアウトルームに分かれて演習問題を3,4人で解きました。対面授業では挙手制であったため、積極性が求められました。

教材：webassign, Khan academyなどのサイトを使って学習しました。

中国語

事前にレベル分けテストがあるため、自分に合う進度で学ぶことが出来ました。課題は多岐にわたり、主にスピーキングをしたり作文を書いたりしました。アンドーバーの先輩からはlanguage tableで授業外に他の生徒と話す機会があると聞いていたので、期待していましたが、今年は残念ながらありませんでした。

教材：Cheng & Tsui webapp というオンライン教科書を使用しました。

コンピュータサイエンス

このコースは2019年に始めて紹介されたSwift UIという言葉を使ってアプリケーションソフトウェア(アプリ)の作成方法を学びました。3学期かけて必要なこと(デザインからサーバーの利用まで)を勉強しました。このコースは実践型の授業だった為、各週学んだことを基盤として2週間に1つのペースでアプリを作成しました。

良かった点はプログラミングを学べただけでなく、テクノロジー業界における様々な倫理的な問題について生徒や先生の間で議論が繰り広げられ、新たな視点で、いつも接しているアプリやスマートフォンを見つめ直すことが出来ました。議論の内容はテクノロジー業界における多様性の重要性や、アプリ内の依存の仕組み、障害のある方にも優しいアプリづくりなどでした。

教材：Macbook(学校から借りました)

English for international students

このコースはインターナショナル生が2学期間必修の科目で、読解、文法、エッセイの書き方などを学習するコースです。授業では課題として精読をした箇所についてディスカッションをしたり、自分が書いたエッセイについて互いにフィードバックをしたりしました。扱った本は人種問題に関わるような本が多く、そのテーマに沿って話し合い、またそれぞれの考え方を学びました。

扱った教材：Sula(Toni Morrison), Real American(Julie Lythcott-Haims), Bedford Handbook

history for international students

インターナショナル生徒用の2学期間必修のアメリカ史でした。こちらは白人がアメリカに来る前からの原住民の歴史から始まり、アメリカ史を多角的な視点から学びました。歴史は社会的権力を有する人たちによって刻まれることが多く、その偏見に影響されていることは仕方ありません。そのことを前提としてアメリカ史を見つめ直すことは非常に新鮮で留学生にとっては興味深い内容でした。

また、複数の参考文献をもとにエッセイを書く課題も複数あり、大変勉強になりました。アンドーバー生であれば様々な論文のデータベースにアクセスをすることが出来る素晴らしい環境が整っているため、それを活用してエッセイなどを書きました。

教材：A People's History of the United States (Howard Zinn)

Public Speaking

このコースは、スピーチで自分の思っていることを伝える練習をするクラスでした。大きな課題は3分間スピーチを3つ書いて発表することでした。主な内容は、「誰かを説得する為のスピーチ」「何かのトップに立候補する為のスピーチ」「何かを賞賛する為のスピーチ」などがありました。授業は基本的に生徒が持ち寄ったテーマをもとに議論していくという形式でした。興味深かったテーマは「空を飛ぶ能力とテレポートどちらがいいか?」「死刑制度は廃止すべきか?」など、様々でした。スピーチをする経験はあまりなかった為、自分の意見を人に惹きつけるように伝えるとても良い勉強になりました。

Queer literature

最初に **queer theory** という学問について論文などを読み、知見を深めた後に、実際に文学作品を読み、授業でディスカッションをしました。

Queer theory という学問自体が非常に大胆かつ難解な上、論文では難しい言葉ばかり使用されていたので最初は読書課題の解読で必死でしたが、慣れると授業のディスカッションが楽しくなっていました。一年を通して、群を抜いて一番難しいコースでしたが、ディベート力と英語力が上がったのが実感できた上に、ジェンダーに対する価値観が変わり大変貴重な経験が出来ました。

教材：Queer A Graphic History (Meg-John Barker, Jules Scheele), Angles in America (Tony Kushner), M Butterfly (David Henry Hwang), Zami (Audre Lorde), その他論文多数

500以上のコースを提供するアンドーバーでは、このようにユニークで専門性の高いコースが沢山あります。**Queer literature** は第1希望ではなかったのですが、このように思いがけない「学び」が得られることが魅力のひとつです。人気のコースは第一希望でも通らないこともあります。第2、第3希望のコースでも、むしろ良かったというコースもあります。少しでも興味を持ったことにどんどん挑戦することをお勧めします。

今後の派遣留学生へのアドバイス

渡航前に準備をしようと漠然と考えておりましたが、実際に行ってみないとなかなかイメージがつかめず、何から準備をして良いかわかりませんでした。しかし、渡航前にできてよかったと感じたことはこのプログラムの留学を終えた先輩方と繋がることが出来たことです。自分と同じ道を歩んでいる先輩方は、理解者で親身になってアドバイスをしてくださり、非常に心強かったです。留学前からこのような繋がりに助けられるのも本プログラムの魅力だと思います。積極的に連絡をとることをお勧めします。

以上

